

「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業」  
平成 30 年度公募における研究テーマの基本的な考え方について

平成 30 年 5 月 7 日  
ステアリング・コミッティ決定

## 1. 背景

文部科学省では、「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業」における平成 30 年度からの新規採択課題分の運用体制を文部科学省の委託事業から日本原子力研究開発機構（以下「JAEA」という。）を対象とした補助金事業に移行した。本公募事業を実施するに当たり、事業執行の一層の透明性・公平性を確保するとともに、廃炉現場のニーズを一層踏まえた国内外の研究機関等との基礎・基盤的な研究開発を実施するため、事業の実施主体となる JAEA に対して研究テーマの基本的な考え方を提示する。

## 2. 基本的な考え方

### 2-1. 重要研究開発課題に基づく研究

原子力損害賠償・廃炉等支援機構が策定した「東京電力ホールディングス（株）福島第一原子力発電所の廃炉のための技術戦略プラン 2017」においては、「事象の解明等を含む目的達成のためのニーズ志向に基づく基礎研究は重要であり、中長期をにらんだ研究開発戦略を立案することが必要である」とし、戦略的かつ優先的に取り組むべき更なる研究開発課題・ニーズとして 6 つの重要研究開発課題を提示している。

本公募事業においても、これらの課題に資する研究開発を実施する必要がある。

### 2-2. 将来を見据えた基礎的・基盤的研究

福島第一原子力発電所の廃炉に係る研究開発は、基礎的・基盤的な研究から応用研究、実用化までのフェーズで、それぞれの大学・研究機関等において必要と考えられる研究開発が取り組まれている。

今後 30～40 年程度の長期にわたる 1F 廃炉事業を着実かつ効率的に推進するに当たっては、現在求められているニーズだけでなく、中長期的な観点から 1F 廃炉事業で将来必要となる技術開発課題や研究開発ニーズを同定し、それらの解決等に資する研究開発及びこれらの研究開発を通じた人材育成を進める必要がある。

### 2-3. 国内外の研究機関と連携した研究

上記の研究開発課題のテーマについては、原子力分野における先進的な取組を行っている英国、フランス、米国及びロシアとの二国間共同研究においても検討を進

めるべきである。なお、ロシアとの二国間共同研究については、平成 29 年 9 月に締結した「日本国文部科学省とロシア教育科学省の日露科学技術共同プロジェクトに関する協力覚書」にも基づき、検討を進めるべきである。

また、JAEA 廃炉国際共同研究センターと大学等の研究機関からなる基礎・基盤研究の推進協議体である「廃炉基盤研究プラットフォーム」においても、ニーズのブレイクダウン・体系的整理を行うとともに、シーズとの関係を明確化する研究開発マップの作成作業がなされている。本事業における研究テーマの検討においては、同プラットフォームをはじめとした様々な会議体での議論を踏まえる必要がある。